

量的変化から質的变化へ

～ インターリンクの固定 IP が目指すもの～

マイ IP サービス開始

インターリンクは11月1日より、固定IPだけを提供するサービス、『マイIPサービス』をはじめます。

当社では、フレッツ・ISDN対応サービス『ZOOT for ISDN』を開始時より、固定IPでの常時接続を提供してまいりました。今でこそ、固定IPを提供するISPは増えましたが、当時、固定IPというと、ほぼインターリンクだけという状況でした。

今回は、そのエッセンスとも言える、固定IP部分だけをブロードバンド接続向けに売り始めました。

ブロードバンド = 高速・常時接続

ブロードバンド接続は、「高速常時」接続です。

その高速性について見てみますと、当社のインターネット事業進出当時、1995年のモデム速度は28.8kbpsでした。28.8kbpsの規格はV.LASTと呼ばれていました。LASTは最終ということで、これ以上速いモデムはできない、モデムの最終形と思われていたのです。今から10年前となると、モデム速度は最高で9600bpsです。

その後、モデムは56kbpsまで進化を遂げました。そしてこの2年で1.5MbpsのADSL、8MbpsのADSL、100MbpsのBフレッツへと高速化が進んでいます。10年前の9600bpsと比べると現在のADSLは約1000倍速くなっています。10年前のハードディスクの最大容量100MBが、現在は約1000倍の160GBになっているということと、ちょうどシンクロしています。

1000倍の幸せ？

では、10年前と比べて、私たちは1000倍幸せになったのでしょうか？

10年前のPCと比べて、通信速度や容量が1000倍になったと聞いて、その通りと実感できる人はどのくらいいるのでしょうか？

この10年で1000倍というのは他の部品にもあてはまりません。CPUやその他のもので計算してみてください。

ここで私が申し上げたいのは、これらの数値はすべて『量的な変化』であるということです。ハードディスクを交換して容量がすごく大きくなったのに、いつのまにか足りなくなったという経験は皆さん、お持ちのことと思います。容量が大きくなって、すぐに足りなくなってしまうのは人間の欲の深さを映す鏡のようなものです。スプーン一杯の幸せで満足できていた70年代が懐かしいですね。このように量的な変化は、私たちを満足させないし、実はさほど大きな変化ではないのです。

忘れら去られた常時性

ブロードバンドは「高速常時」接続であると先ほど申し上げました。

そして、日経新聞の朝刊ににぎわすのは、たいてい、「1Gbpsの基幹網」とか高速性の話ばかりです。マスコミが忘れてしている常時接続こそ、私は時代を変える、新たな時代を築くキーであると考えています。さらに言えば、常時性については、あまり世間では省みられていないのではないのでしょうか。

接続時間が長い、短いというのは、これは量的な変化です。毎日1時間接続していたのが3時間になった、これは量的な変化です。しかし、毎日1

時間接続していたPCが24時間ずっと接続状態のままになったら、これは量的な変化ではなく質的な変化です。

インターリンクのしていることは、質的な変化を促すこと。

この質的な変化が、私たちのPCを取り巻く環境にどのように影響を与えるのか、私はそのことを考え続けています。その中で、出した答の一つが、固定IPです。固定IPで常時接続をすると、それまでできなかった新たな世界が開けます。ドメインを取得してWebページを公開することもできますし、メッセージのようなソフトウェアではIPが固定ですから、IPアドレスで話しかけることができ、他のユーザーと名前が同じでも混同することはありません。また、外出先からリモートコンピューティングで操作するのも簡単です。しかし、その自由な世界を享受できる一方で、IPアドレスが固定になるとハッカーの攻撃なども受けやすくなるといふリスクがあります。が、適切な処置を施せば、これらは防御可能です。

私たちは、かつて人類が経験したことのない、ブロードバンド化のまったただ中にいます。

インターリンクのしていることは、ほんの少しかだけ時代を早く進めていることに過ぎないかも知れませんが、固定IPアドレスには今後もこだわっていきたいと思います。

動的なIPアドレス(固定でないIPアドレスのこと)が、常時接続でない時代の遺産となる日は遠くないかも知れません。